

Cover History

— 表紙写真由来 —

ふるさとの水と土への慈しみの心を育む 河北潟干拓地「ひまわり村」

— 石川県津幡町 —

石川県農林水産部農業基盤課 村田智香

1. はじめに

河北潟干拓地の「ひまわり村」(表紙写真, 写真-1)は、石川県金沢市と隣接した河北郡津幡町に位置しており(図-1)、農業への親しみ、ふるさとの水と土への慈しみの心を育むことを目的として、毎年7月下旬～8月中旬のヒマワリの開花期間に開村されている。

現在は、石川県の夏の風物詩として定着してきており、県内外から多くの人を訪れている。



提供：河北潟干拓土地改良区

写真-1 「ひまわり村」全景

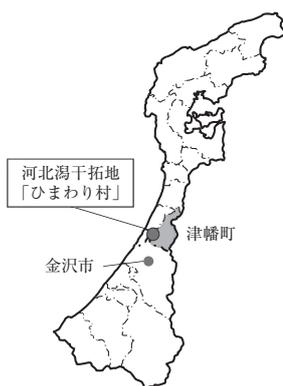


図-1 位置図

2. 河北潟干拓地の概要

ひまわり村のある河北潟干拓地は、金沢市、かほく市、津幡町、内灘町の2市2町の行政区域に立地している。土壌は、砂質土で客土をした一部の圃場を除き重粘質で、平均海拔は-2mである。

国営干拓事業として昭和38年に着工し、当初は水

田利用として計画されたが、昭和45年からの減反政策により、水田から畑地へ土地利用計画が変更され、昭和61年度に事業は完了した。

干拓地の総面積は1,356haで、1,079haの農用地と277haの農業用施設用地・道路・堤防からなる。

営農開始から約40年が経過した現在では、普通畑787ha、特殊畑(レンコン)67ha(写真-2)、酪農用の飼料畑217haとなっており、麦類・大豆・水稻等の穀物や、スイカ・コマツナ・レンコン等の野菜、ナシ・ブドウ等の果樹、酪農が営まれている。特に、麦類・大豆では大型機械を利用した大規模な生産が、酪農では乳用牛の多頭飼育が行われている。コマツナ、レンコンは新規就農者が徐々に増えており、販売額も年々増加している。



提供：河北潟干拓土地改良区

写真-2 河北潟干拓地のレンコン畑

3. ひまわり村の概要

ひまわり村は、都市住民との交流促進を図り、干拓地農業の理解や生産物の普及・啓発など、河北潟干拓地の営農の活性化のために、平成7年から設けられているヒマワリ群である。

当時の植栽面積は0.6ha、来場者は3,000人程度であった。現在は植栽面積2.3haまで拡大され、約3週間の開村期間中に、県内外から3万人以上の人

訪れる人気の観光スポットとなっており、毎年5月下旬に地元の保育園児と種まき行事を実施し、ヒマワリが咲き始めた7月下旬に開村式を行っている。

7月下旬～8月中旬に、約35万本の「ハイブリットサンフラワーNEO」(ヒマワリの品種)が咲き誇り、高さ約2mのヒマワリ畑の中を縫って、全長約1kmの「ひまわり迷路」や、迷路の途中に設置されている展望台からの眺めを楽しむことができる。

ひまわり村では、河北潟干拓地で営農している農家で結成されたバンドによるミニLIVE、農機を運搬するトレーラによる「ひまわりトロッコ」,「ひまわりカフェ」などのイベントや写真コンテストなども実施している。

近年は、各所に消毒液を設置するとともに、迷路の通路幅を拡張し、すれ違いが起きないよう一方通行とし、展望台も2倍の広さにしている。また開村期間中の各種イベントを中止するなど、新型コロナウイルス感染症対策を講じて開村している。

4. 園児による種まき行事と開村式

毎年5月下旬には、金沢市、かほく市、津幡町、内灘町の保育園児によるヒマワリの種まき行事を行っている。園児は深さ約3cm、1人当たり10カ所程度の播種を行い、残りのエリアについては後日干拓地農家による機械播種を行っている。その後、スプリンクラー灌水・培土・追肥・迷路づくり・除草作業をし、開村を迎える。7月下旬の開村式では、種まきを行った保育園も参加し、園児によるアトラクション(マーチングおよび遊戯)や迷路あそび、河北潟干拓地で収穫されたスイカの試食などを行っている。テープカットには名誉村長の石川県知事を中心として、園児も一緒に参加している(写真-3)。



提供：河北潟干拓土地改良区

写真-3 開村式のテープカットの様子

5. ひまわり村のライトアップ

ヒマワリの開花期間は約2週間程度と短いことから、その開花期間を有効活用することを目的として、開村20周年の記念を兼ねて平成27年に夜間のライ



提供：河北潟干拓土地改良区

写真-4 ライトアップされたヒマワリ

トアップ(写真-4)を実施したところ、5日間の開催期間で約1,500人が来場し、大きな賑わいを見せた。以降、毎年実施しているが、来場者も年々増加しており、令和3年は約4,000人の来場があった。迷路の入口より、上からヒマワリを照らすサーチライトや足元を照らすLEDライトを設置し、通路や展望台からライトアップされたヒマワリを鑑賞することができる。来場者からは「ヒマワリのライトアップは珍しい」、「夜のヒマワリも綺麗」、「来年度以降も継続的に続けてほしい」との声が多く、今後も継続して実施することとしている。

6. クリムソクローバーによる地力増進

ひまわり村の有効利活用や地力増進を目的として、閉村後の9月下旬にクリムソクローバーの播種を行っている。翌年の5月上旬には開花し、深紅色の花々が畑一面に広がる。5月中旬まで花の見ごろは続き、ヒマワリとは違った魅力があることから、見ごろとなるゴールデンウィーク後半からは多くの見物客が訪れている。その後、クリムソクローバーは刈り取られ、縁肥として畑にすき込まれる。

7. さいごに

河北潟干拓地ひまわり村は設立から約30年が経過し、近年はライトアップやクリムソクローバーの播種など新たな取組みも実施していることからテレビや雑誌にも多く取り上げられ、ますます石川県の人気スポットとして定着してきている。今後も取組みを継続していき、関係団体が一丸となって河北潟干拓地農業の魅力を発信していきたい。

参考文献

- 1) 河北潟水土里ネットかんとく：ひまわり村, <https://www.kahokugata.com/himawarimura.php> (参照2022年4月20日)
- 2) 石川県：河北潟干拓地の概要(2020), <https://www.pref.ishikawa.lg.jp/kenounourin/nousinbu/kahokugata/kahoku.html> (参照2022年4月20日)